

魚津市が2020年度末までに廃止する方針を示している新川学びの森天神山交流館（同市天神野新）を巡り、県内外から価値を評価する声が上がっている。作曲家の池辺晋一郎さん（東京）もメッセージを寄せた。市は民間の力で施設を維持したい考えだが、新型コロナウイルスによる影響は深刻で、先行きは不透明だ。（松下奈々）

# 存続求める 声相次ぐ

## 県内外から高い評価

交流館は、旧洗足学園魚津短大の校舎や食堂、宿舍を活用した多目的施設。音楽の個人・団体練習、各種文化教室、スポーツ、会議など幅広く利用できる。

中でも充実しているのは音楽の設備だ。短大に音楽科があった名残で、音楽やダンスの練習に使える練習室や研修室が計40室あり、ピアノ34台、ドラムセット、チューバ、ホルンなど楽器も豊富にそろった。

こうした背景から、一流音楽家を招き若手奏者を育成する「とやま室内楽フェスティバル」の宿泊セミナー、池辺さんが音楽の魅力を伝える「早春音楽だより」など、質の高い音楽イベントが10年以上にわたって毎年、開かれてきた。

室内楽フェスティバルのバイオリン奏者、渋谷優花さん33は「敷地内で宿泊、食事、練習と全て完結する。ここまで音楽漬けになれる環境はなかなかない」と話す。

奏楽団、個人の音楽家らにとっては貴重な日々の練習場所だ。交流館の楽器を借りて練習する団体もあり、「廃止されれば存続できない」との声もある。

市の廃止方針を受け、利用者有志は存続を求める署名を6036人分集めた。有志は3月、新川学びの森交流館利用促進会議（木村俊哉議長）を設立し、存続を目指して協議を始めた。署名の半分以上の3809人が市外、県外の利用者だったことから、県などの支

援を求める意見も出た。交流館の稼働率アップに向けて魅力を広く発信しよう

と、交流型のイベントも企画した。ところが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、交流館は臨時休館。存続に向けた取り組みは中断した。木村議長（67）は「ミュージックウィンドオーケストラ代

表、入善町は「廃止まで時間がないが、動こうにも動けない。厳しいが、それでも私たちにこそこしかない。文化の拠点を守るため、できることを精いっぱいやりたい」と話した。

### 「設備充実 魅力・価値ある」

新川学びの森天神山交流館は、音楽大の設備をそのまま活用した多目的施設であり、非常に貴重な場所だ。防音の練習室、小ホール、ピアノ、管楽器など、設備が充実している。全国でも他にない魅力があるユニークな施設であり、もっと誇りたい。誇らしげにしない謙虚さも、魚津市民のいいところだけだ。

小ホールは、出演者と来場者との距離が近い。魚津の人の飾らない、温かな人柄もあって、コンサートを開くと和やかな雰囲気になる。交流館のイベントで毎年、世界的な音楽家と共演しているが、彼らも温かい雰囲気を喜んでた。

学びの森は、発表や練習だけの場所ではない。一般市民もプロの芸術家も、幅広い人たちが文化を体験できる、世界の手本となる施設だ。知る人ぞ知る施設

### 作曲家 池辺晋一郎さん メッセージ



新川学びの森天神山交流館で講演する池辺さん（2018年2月）

だったが、もっと知ってもらわないといけない。価値ある施設を消滅させてしまつてはいけません。

いけば、しんいちろう 作曲家。「少年時代」「劔岳 点の記」など県内を舞台にした映画の音楽も手掛けた。2018年、文化功労者に選ばれた。東京在住。76歳。

新川学びの森天神山交流館が開かれた、とやま室内楽フェスティバルのセミナー（2019年10月）

